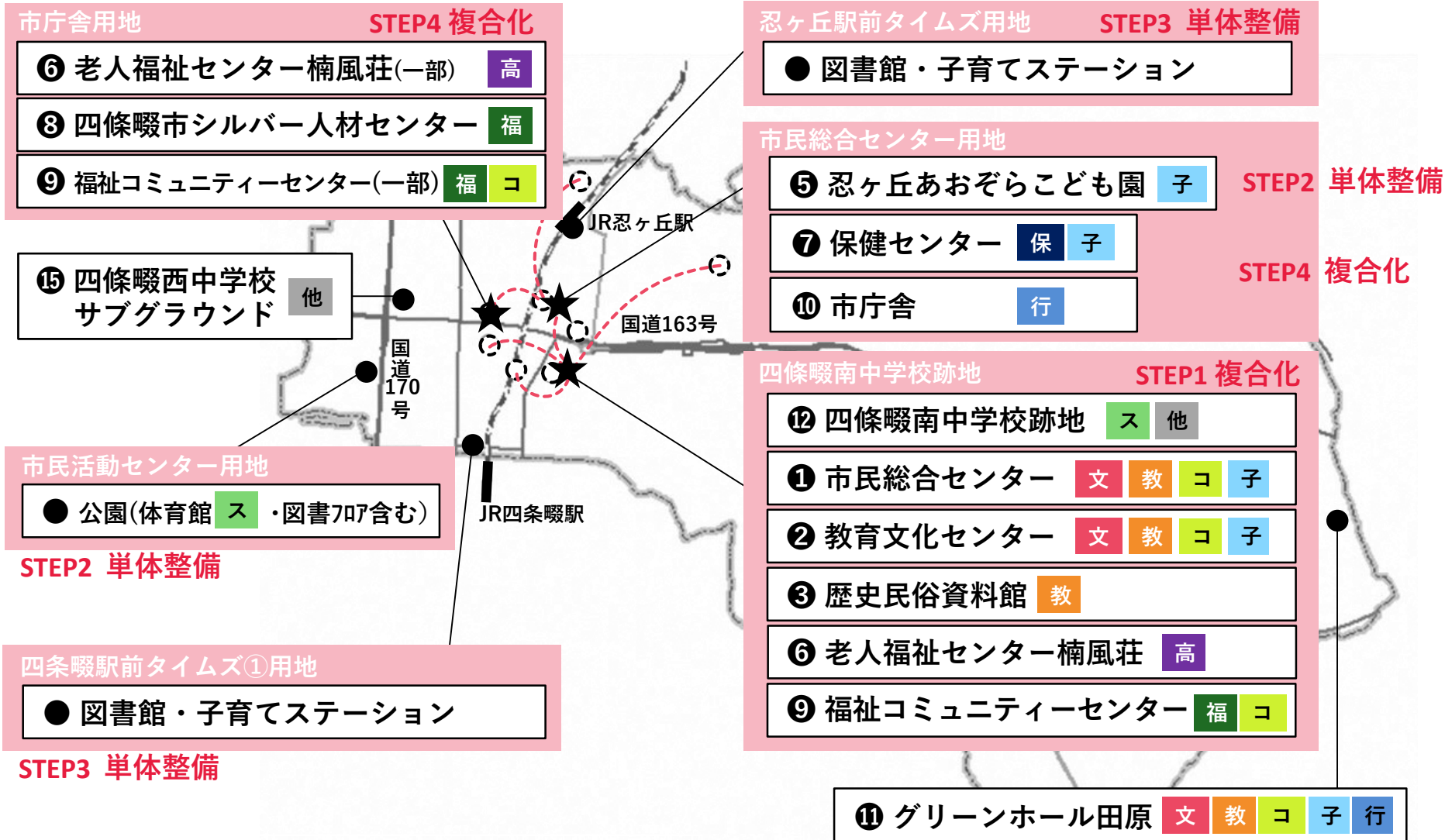


# 再編検討に係る費用と考え方

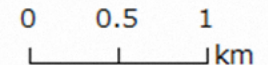
---

# ○ 検討対象施設の再編検討 たたき案①



■ 機能分類・凡例

市民文化機能	社会教育機能				
スポレク機能	社会福祉機能	コミュニティ機能			
子育て支援機能	高齢福祉機能	保健機能	行政機能	その他	



## ○ 再編検討たたき案①：考え方

## STEP 1：四條畷南中学校跡地（複合化）

約 35.0 億円

## 主な考え方

- 耐震化未実施施設の安全確保、地域の防災機能の確保
- 子ども達が安全に遊べる広場、多世代の利用者が交流する複合施設の整備
- 市民総合センターの機能(市民ホールや図書館等を含む。)を移転することにより老朽化を解消（ホール規模713席を300席に見直し）
- コスト・規模の効率化
- 現状の施設の管理・運営者の引継ぎ・スケジュール調整等が必要

## STEP 2：市民総合センター用地（単体整備）

約 5.2 億円

## 主な考え方

- 忍ヶ丘あおぞらこども園の老朽化の解消
- 将来的に公立園が1園となるため、西部地域の中央部に配置

## STEP 2：市民活動センター用地（単体整備）

約 2.8 億円

## 主な考え方

- 体育館は利用率が高いため、耐震化を図り、現状機能を維持
- 旧校舎解体後は、ボール遊びができる公園を整備
- 図書フロアは、市民活動センター用地内を含め国道170号以西の設置検討
- 多目的室の機能はくすのき小学校と多機能化

## STEP 3：グリーンホール田原（単体整備）

約 8.3 億円

## 主な考え方

- 現施設位置に立地
- 市庁舎の行政機能の一部を移転し、一部を民間事業者に出賃検討
- 子育てステーションを整備することにより、子育てしやすい環境の整備

## ○ 再編検討たたき案①：考え方

## STEP 3：四条駅駅前タイムズ①、忍ヶ丘駅前タイムズ用地（単体整備）

民間活用

## 主な考え方

- 駅前という立地を活用
- PPPを活用し、子どもから高齢者まで幅広い世代に利用されている図書館サービスの整備
- 多様な保育需要に対応していくため、JR忍ヶ丘駅前、JR四条駅前に子育てステーションを整備することにより、子育てしやすい環境の整備

## STEP 4：市民総合センター用地（複合化）

約 28.9 億円

## 主な考え方

- 現市庁舎の本館が建築後50年以上が経過し、建替時期を迎える
- 市庁舎は、市の中核施設であるため、西部地域の中央部に配置
- 親和性の高い保健センターと機能統合し、新たな総合庁舎の整備
- 公立こども園と総合庁舎との併設で、多世代の利用者の交流、新たなコミュニティの形成
- コスト・規模の効率化

## STEP 4：市庁舎用地（複合化）

約 2.8 億円

## 主な考え方

- 現市庁舎東別館を関係団体への貸館に転用（（公特）四條市商工会、四條市シルバー人材センター、（福）四條市社会福祉協議会）
- 老人福祉センター（一部）、福祉コミュニティセンター（一部）、教育センターを複合化

## ○ 検討対象施設の再編検討 たたき案①まとめ

### 費用

●事業費：511.3億円（12.8億円／年） → 283.4億円（7.3億円／年）  
（▲227.9億円）

注）中長期的な人口減少により、東部地域における小中一貫校の整備、四條畷南中学校及び四條畷東小学校以外に更に西部地域で2校の学校減少を見込んだ試算を含む。

うち、検討対象施設に係る事業費  
158.6億円 → 83.2億円  
（▲75.4億円）

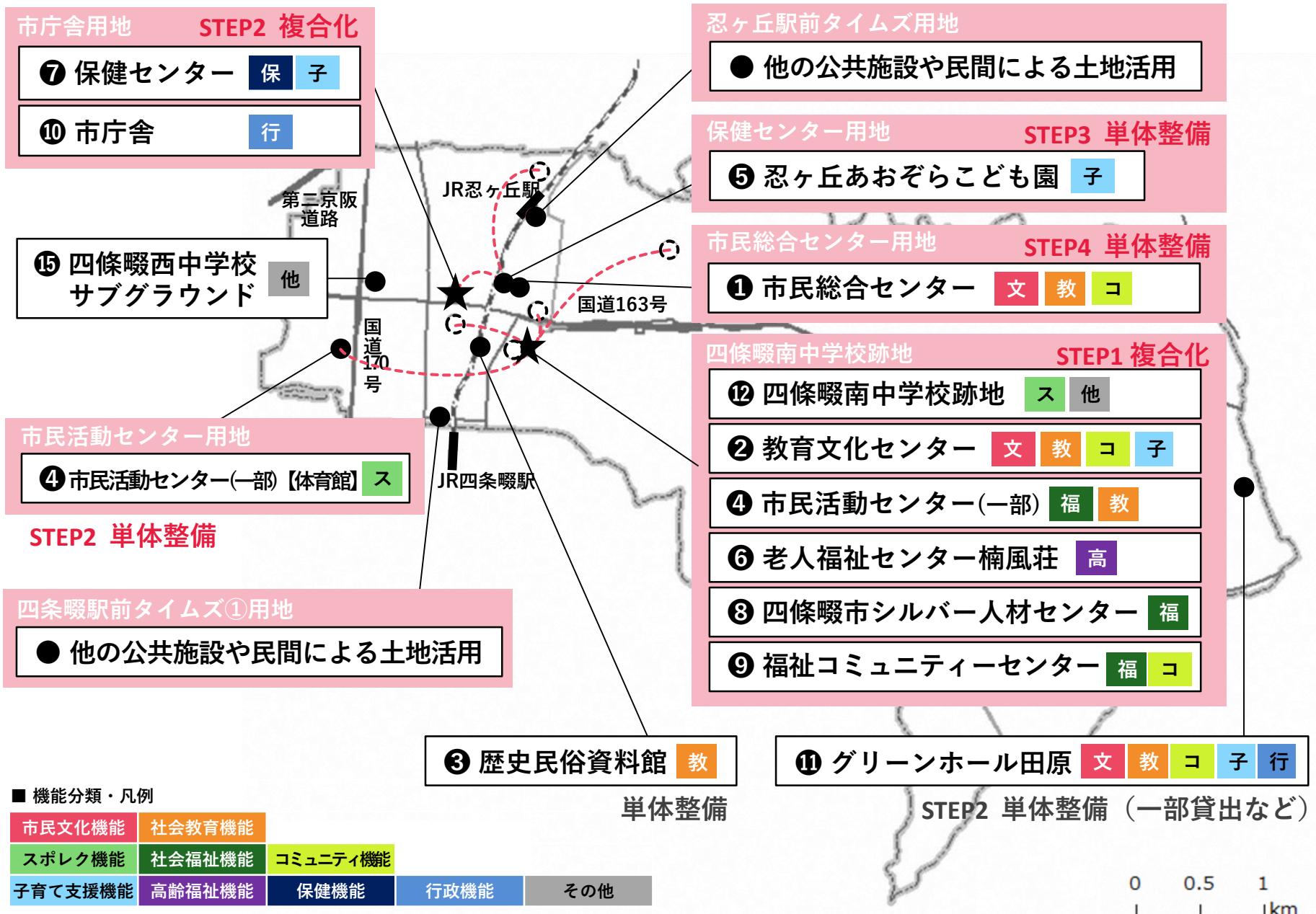
### 床面積

●総延床面積：12.20万㎡ → 8.96万㎡  
（▲3.24万㎡）

注）今後の方針を広域化、PPP等とした施設の面積は半減で試算。

うち、検討対象施設の床面積  
3.52万㎡ → 1.76万㎡  
（▲1.76万㎡）

# ○ 検討対象施設の再編検討 たたき案②



## ○ 再編検討たたき案②：考え方

## STEP 1：四條畷南中学校跡地（複合化・新築建替え）

約 20.5 億円

## 主な考え方

- 早期の安全性確保（耐震化未実施施設）
- 5施設+新規機能の複合化による利便性向上・多世代交流の促進
- 西部地域の中央部における魅力的なシビックエリアの形成に寄与(都市計画マスタープランとの整合)
- コスト・規模の効率化
- 現状の施設の管理・運営者の引継ぎ・スケジュール調整等が必要

## STEP 2：市庁舎用地（複合化・新築建替え）

約 35.6 億円

## 主な考え方

- 行政・市民サービスの効率化・利便性向上
- シビックエリア・西部地域の中央部である現市庁舎位置に立地(都市計画マスタープランとの整合)
- コスト・規模の効率化
- 検討課題として、現庁舎敷地内で機能を維持しながら整備する建替計画が必要

## STEP 2：グリーンホール田原（単体整備・現状維持）

約 16.6 億円

## 主な考え方

- 耐震性を有し大規模な整備を必要とせず、有効活用の検討が可能
- 大幅なレイアウト変更は難しく、現状の空間を前提に、有効活用方法の検討が必要



## ○ 再編検討たたき案②：考え方

## STEP 3：保健センター用地（単体整備・新築建替え）

約 4.6 億円

## 主な考え方

- こども園にとって安全・望ましい環境の確保
- 集約整備によるサービスの効率化
- シビックエリアに立地し、将来的な公立園の統廃合の観点から西部地域の中央部に配置する方針と合致
- コスト・規模の効率化

## STEP 4：市民総合センター用地（単体整備）

約 19.2 億円

## 主な考え方

- 現施設位置（望ましい環境）に立地
- 築年数・耐震性能より、大規模な整備を必要とせず、継続利用が可能
- 検討課題として、継続利用・改修とするか、新築建替えとするかの検討が必要
- 敷地条件より、大幅な規模増加は難しい

## STEP ー：歴史民俗資料館（単体整備・現状維持）

約 2.2 億円

## 主な考え方

- 現施設位置に立地することで、文化財である土蔵との連携が可能（価値の継承）
- 築年数・耐震性能より、継続利用が可能
- 利用率改善のための対応が必要（例：サテライト展示スペースの展開による呼び込み等）



## ○ 検討対象施設の再編検討 たたき案②まとめ

### 費用

●事業費：511.3億円（12.8億円/年） → 334.4億円（8.6億円/年）  
（▲176.9億円）

うち、検討対象施設に係る事業費  
158.6億円 → 102.2億円  
（▲56.4億円）

注）上記の試算は、個別施設計画（令和2年1月策定）の将来更新費用の試算をもとに算出

### 床面積

●総延床面積：12.20万㎡ → 10.01万㎡  
（▲2.19万㎡）

うち、検討対象施設の床面積  
3.52万㎡ → 2.16万㎡  
（▲1.36万㎡）